

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：14601
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2020～2023
 課題番号：20K02885
 研究課題名(和文) 図工・美術科題材と「包括的な学習」との関係性 美術教育における「遊び」概念から

 研究課題名(英文) The relation between teaching materials for art and comprehensive learning: taking the concept of "play" into consideration in art education

 研究代表者
 宇田 秀士 (UDA, Hideshi)

 奈良教育大学・美術教育講座・教授

 研究者番号：20283921
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：<研究課題1 図工・美術科題材と「包括的な学習」との関係性>に関して「美術教育の「遊び」概念における<芸術の拡張>」の考察、ドイツのM.ウアラス教授の初等教育における実践提案の翻訳・整理、長谷川三郎、沢野井信夫両氏の「生活の中の美」をふまえた造形活動の構想の考察などを行なった。<研究課題2 題材及び授業モデルの開発と実践・検証>に関しては、小中高の教師と協働で、クラブ活動や総合学習などと絡めた題材を実践・検証した。<研究課題3 美術教師教育プログラムへの展開>では、上記成果をふまえ、コロナ禍でのオンライン研修を含む美術教師教育プログラムの開発・実践を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

<図工・美術科題材と総合的な学習、ESDなどの「包括的な学習」との関係性>について、「遊び」概念を据えて美術教育史研究及び理論研究から迫ることで、「生活の中の美」に着目することになり、「包括的な学習」との関係性をふまえた新たな美術教育実践像を描写することができた。また上記をふまえた<題材・授業>の開発・検証では、「写真・版画紙題材」「身体性を活かした版画題材」「地域の展覧会を活かした題材」などを提案することができ、美術教育実践における基礎資料となった。さらにオンライン研修を含む美術教師教育の展開は教員養成系大学・学部課題である能動的な活動を提供できる教師教育プログラムの基礎資料になった。

研究成果の概要(英文)：In connection with Study Theme 1: Relationship Between Themes for Art Classes and "Comprehensive Learning", work was done to (i) examine "expansion of the arts" in the concept of "play" in art education, (ii) translate and sort primary education practices as proposed by Professor M. Urlass of Germany, and (iii) examine the idea of art and design activities, taking "beauty in everyday life" advocated by Saburo Hasegawa and Nobuo Sawano into consideration, etc. In regard to Study Theme 2: Development, Practice and Verification of Teaching Themes and Teaching Models, theses combined with extracurricular activities and integrated study were put into practice and verified through cooperation with primary and junior as well as senior high school teachers. In the case of Study Theme 3: Development Towards an Educational Program to Train Art Teachers, an educational program to train art teachers, including on-line training during the COVID-19 crisis, was developed and put into practice.

研究分野：美術教育学

キーワード：図画工作科 美術科教育 包括的な学習 総合的な学習 「遊び」概念 アートの拡がり 内発的な動機付け 造形遊び

1. 研究開始当初の背景

美術教育実践には指導者の意識の中に「遊び」概念が存在し、その特徴を活かした子ども主体の独自の実践が生まれた反面、その多義性ゆえに混乱・誤解も生んできた経緯がある。1977(昭和 52)年版学習指導要領図工編低学年に初登場し、その後全学年に位置づけられ現在に至る「造形遊び」もその一例である。2003(平成 15)年に宇田が企画した美術科教育学会第 5 回西地区会では「造形遊び」の特徴、現状、課題について討議、整理した。その中で永守基樹氏が「造形遊び」概念規定の曖昧さが教育現場における誤解・混乱の一因と指摘した¹⁾。

また主体的な活動が重視される美術教育実践においては、「造形遊び」導入以前にも「遊び」的な活動や考え方は存在し、美術教育実践と縁が深い「遊び」概念全体の整理・構築を行なう必要性を感じて、継続研究を行ってきた。

その結果、「遊び」概念を内包する実践は、双方に有機的な関係があるが、指導者にとって、子どもの〈内発的な動機づけを活かした実践(内発的な動機づけからの実践)〉と子どもに〈アート概念の拡がりに出会わせ柔軟な思考に誘う実践(アート概念の拡がりからの実践)〉に大別されるという枠組みを提示した(図 1)。この枠組みにおける「自由への志向」の相は、美術教育に携わる教師の〈意識〉の基盤にあたる。これを源とした「内発的な動機づけを活かした実践」の相では、初等教育に携わる教師の実態や大阪の実践・研究者乾 一雄(1920-1992)の〈「遊び」に基づく子どもの表現過程構想〉及び実践事例を中心にみた²⁾。その上で、この相においては、子どもの実像把握のための観察をふまえた洞察が肝要であり、初等教育段階に馴染みがあると指摘した。

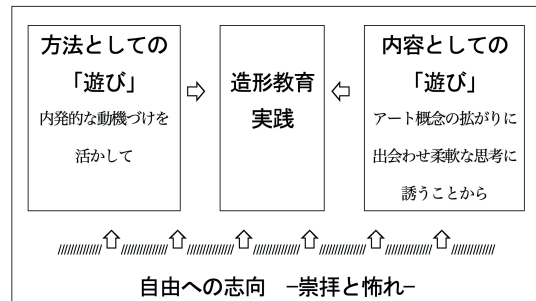


図1 「遊び」概念に関わる2つのアプローチ

〈アート概念の拡がりからの実践〉の相では、沢野井信夫(1916-1990)や乾の構想・実践、文部・文科省「造形遊び」の内容を検討した。そこでは、彼らの構想・実践の新奇性、斬新性といった特徴の背景にある同時代美術の存在〈アート概念の拡がり〉を確認した。そして、沢野井、乾、1970年代後半の板良敷 敏(1945-、後に文部省教科調査官)らの「大阪 Do の会」の活動の事例、ドイツの芸術家ヨーゼフ・ボイス(Joseph Beuys, 1921-1986)の思想に刺激を受けた美術科教育学会「現代〈A/E〉」部会の活動(2008-2022.3)に至る文脈の考察を行なった。これらは一般的には、内発的な動機づけが容易でない小学生終盤から中高校生の授業の実態とあっていることを指摘した³⁾。

この〈アート概念の拡がりからの実践〉を考察する中で、「包括的な学習」をふまえて美術教育を捉えていく視点の重要性を意識した。日々の生活を送る子供の思考に任せていけば、「総合的な学習」「ESD」「STEAM」「教科横断的な学び」などでの造形的な学びが視野に入るからだ。「遊び」概念が内包された図画工作・美術科題材と「包括的な学習」との関係の整理が必要と考えた。

2. 研究の目的

「遊び」概念を活かした図画工作・美術科の題材と「総合的な学習」「ESD」「STEAM」「教科横断的な学び」などの「包括的な学習」との関係を整理・構築し、教科の特質と「包括的な学習」が融合した授業実践ならびにカリキュラムを提案する。また「試行錯誤、領域横断的な思考」が

織り込まれた「遊び」概念を内包する図画工作・美術科題材>の開発・実践・検証を継続するとともに、その題材を活かした「包括的な学習」モデル開発とその実践・検証を行い、教師教育プログラムに反映させる。

3．研究の方法

本研究では、次の3つの研究課題を設定して追究する。

研究課題1 <図画工作・美術科題材と「包括的な学習」との関係性>に関する言説や教育実践について、出版物や現役教師に対する面接調査・授業観察、ドイツなどの海外共同研究者との情報・意見交換をふまえ、理論的に整理・考察する。

研究課題2 代表者は、小中高の教員や造形教室講師をメンバーとした研究体制を15年程前から設けているが、この場で課題1の成果をふまえ、小中高における「遊び」概念をふまえた<題材・授業モデル>開発を行うとともに、教科の特質と「包括的な学習」が融合した授業実践ならびにカリキュラムを各勤務校において、実践・検証をする。

研究課題3 課題1, 2の成果をふまえ、<現職教員>と<プレ教師教育段階にある大学教育>のプログラムを開発・実施する。特に、現職教員に向けては、美術教育実践の根底にある教師の<意識>の視点を据え、これに留意しながら作成する。

4．研究成果

(1)[研究課題1 図工・美術科題材と「包括的な学習」との関係性]の一部については、「美術教育の「遊び」概念における<芸術の拡張>について」(大学美術教育学会誌 53, 2021)と題して発表した。「芸術概念の拡がりをもたらす柔軟な思考への誘い」は、現代アートに関心を持つ教師、作品づくりを超えて芸術の意味を子供に体験させたい教師、プロジェクト型の活動や総合的な学びと一体化させて学ぶことに意味を見出す教師などによって支えられてきた。そして現代アートの動向は、<拡張>の中で「総合的な学習」など包括的な学習との道筋を示しつつあると考察した。

また包括的な学習のうち、国の教育政策としての学校現場へのアプローチが見られるESD, STEAM教育は、授業時間の確保という意味で図画工作・美術科の「危機」の側面もあるが、教師の力量次第では、図画工作・美術の教科学習と社会生活や理数系教育との往還をし、「主体的な活動を生み出す内発的な動機づけ」の活動を実現させる可能性もあると考察した。

(2) 本研究において「包括的な学習」を考察する場合、<芸術の拡張>をその根底においていた。その意味でドイツの芸術教育について、海外共同研究者であるドイツ・ハイデルベルク教育大学のM.ウアラス教授(Mario Urllass 1966-)の初等教育における実践・提案⁴⁾の訳出・整理は、上記の考察の基礎資料となった。

(3) 学校教育におけるESDと教科教育の関係性については、「地域の仏像鑑賞と<人の表情やポーズ>」に焦点をあてた教育実践に基づく提案を「図画工作・美術・工芸科とESD」(学

校教育における SDGs・ESD の理論と実践 (2021))として発表した。人間の基本的な表情や所作から仏像に迫る発想に特徴があった。

(4) <芸術の拡張>については、日本の先行教育実践・研究の中で<「生活の中の美」と「あそび」>という構想を見出し、沢野井信夫(1916-1990)の「社会教育の中でのあそびを活かした美術教育」を継続研究して考察した。そして、その成果を「沢野井信夫の「あそび」を活かした美術教育の構想(1)(2)(3)」(奈良教育大学 学内紀要, 2022-1, 2022-2, 2023)として発表した。また、その具体的な題材について、[研究課題2]と関連させ実際に追実践を試み、内容を確認した。

(5) また、沢野井の師である画家・理論家の長谷川三郎(1906-1957)の業績の中に、沢野井の構想の「原型」があるのではないかと仮説を立て、長谷川の著作や作品を分析し、「沢野井信夫の「あそび」を活かした美術教育の構想にみられる長谷川三郎の視座」(美術科教育学会誌 45, 2024)として発表した。関西地方における造形活動における「遊び」教育実践の源流の一つとも言える可能性があると考えた。また、写真を媒介した作品づくりなどは現代の教育実践にも寄与できることを確認した。

(6) 小中高の教員や造形教室講師をメンバーとした研究体制で、[研究課題1]の成果をふまえ、[研究課題2 小中高における「遊び」概念をふまえた<題材・授業モデル>開発と教科の特質と「包括的な学習」が融合した授業実践ならびにカリキュラム開発]を行った。

クラブ活動や総合学習などと絡めた古墳探究題材、地域の展覧会開催に合わせた「具体美術」や「クリスト」の鑑賞・表現題材、「印画紙題材」「手作りアニメ題材」「Box 題材」「身体性を活かした版画題材」「スクラッチ題材」「名画をアレンジする表現活動」「折り紙から展開する表現活動」などを実践・検証した。子供の関心・意欲を中心におきながらも美術・造形文化にふれる側面を大事にした。

(7) [研究課題3 <現職教員>と<プレ教師教育段階にある大学教育>]では、上記の成果をふまえ、コロナ禍でのオンライン研修も含めて、美術教師教育プログラムの開発・実践の展開を行なった。WEB上の情報を活用したプログラムを作成することができた。また大学生や経験の浅い現職教員向けに<「造形遊び」の目的と内容、評価>について解説した内容を発表した(美術科教育の基礎, 2024)。

引用文献

1) 永守基樹「21世紀における「造形遊び」の可能性-アヴァンギャルディズムを超えて-」宇田秀士編著『美術科教育学会第5回西地区会<研究発表会 in 奈良>概要集 25年を経た「造形遊び」の功罪-新たに切り開いた道>と<巻き起こした混乱・誤謬>』ABS出版, 2003, pp.69-78.

2) 宇田秀士「「遊び」を活かした美術教育実践の構想(1)-乾一雄の美術教育の構想」『奈良教育大学 教育実践開発研究センター 研究紀要』22(通巻35), 2013, pp.35-43. 宇田秀士「「遊び」を活かした美術教育実践の構想(2)-乾一雄の美術教育の構想にみられる「遊び」の原理と教育実践-」『奈良教育大学紀要』62(1), 2013, pp.105-120. 宇田秀士「乾一雄の「遊び」を活かした美術教育の構想の特徴と実

際の授業像 - 大阪市立大開小学校の実践研究(1978-1980)を中心にすえて - 』『美術教育学』35 , 美術科教育学会, 2014, pp. 137-152, 552 .

3) 宇田秀士「美術教育における「遊び」概念の諸相：教師の〈意識-規範・文化〉をふまえて 』『美術教育学』38, 美術科教育学会, 2017, pp.77-91,500 .

4) これまでも以下の報告書にウアラス氏のアート・プロジェクトの実践・提案の一部を収録している。宇田秀士, マリオ・ウアラス, 岡田陽子, 辻大地, 福本謹一, 湯川雅紀, 鈴木幹雄ほか『2016年度 美術科教育学会 リサーチフォーラム in Osaka, Japan 記録集 ドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」から探る美術教育の新たな〈かたち〉 マリオ・ウアラス教授(ドイツ・ハイデルベルグ教育大学)のプロジェクト型美術教育をふまえて Web 版』<https://www.artedu.jp/researchforum/kiroku>
<2024年6月1日アクセス>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 106
2. 論文標題 巻頭言 静寂の中, 斯界の<理論的な枠組み>を振り返る -第43回美術科教育学会 愛媛大会2021.3.27/28の盛会を期して-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術科教育学会通信	6. 最初と最後の頁 1,2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 53
2. 論文標題 宇田秀士、美術教育の「遊び」概念における<芸術の拡張>について-教師の<意識-規範・文化>の観点をふまえて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術教育学研究-大学美術教育学会誌	6. 最初と最後の頁 41,48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19008/uaesj.53.41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 8(通巻44)
2. 論文標題 沢野井信夫の「あそび」を活かした美術教育の構想(1) - 沢野井信夫の構想の背景について -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良教育大学 次世代教員養成センター 研究紀要	6. 最初と最後の頁 27,36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013522	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 沢野井信夫の「あそび」を活かした美術教育の構想(2) -主要著作『新しい絵あそび』の分析を中心に-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良教育大学 紀要<人文・社会科学>	6. 最初と最後の頁 77,98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013580	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 1
2. 論文標題 沢野井信夫の「あそび」を活かした美術教育の構想(3)-著作『版画のいろいろ-版画あそび』の分析を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国立大学法人 奈良国立大学機構 連携教育開発センター紀要	6. 最初と最後の頁 9,17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013598	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 85(5)
2. 論文標題 特集 こんな授業やってみたい 温故知新 沢野井信夫氏の「あそび」を活かした美術教育の構想(1950-60年代)を現代へ-身近な材料を使った絵あそび, 版画あそび-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 36,37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 45
2. 論文標題 沢野井信夫(1916-1990)の「あそび」を活かした美術教育の構想にみられる長谷川三郎(1906-1957)の視座-沢野井の師, 長谷川の1950年代の著作をふまえて	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 美術教育学-美術科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 61,78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24455/aaej.45.0_61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 2件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 宇田秀士
2. 発表標題 沢野井信夫の「あそび」を活かした美術教育の構想 その構想の背景についてー
3. 学会等名 第44回美術科教育学会 東京大会(明治学院大学オンライン開催)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇田秀士
2. 発表標題 「造形遊び」の課題と展望 - 「金子/柴田論争」に触発された<討議企画>をふまえて -
3. 学会等名 2022年度 美術科教育学会リサーチフォーラム in 東京・弘前 「共に考える2030年代の美術科教育における『造形遊び』の意義」第1回（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇田秀士
2. 発表標題 美術教育史研究部会 戦後日本美術教育史研究の視座を探る(2)
3. 学会等名 第45回美術科教育学会 兵庫大会（神戸大学オンライン開催） 美術教育史研究部会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宇田秀士
2. 発表標題 沢野井信夫(1916-1990)の「あそび」を活かした美術教育の構想と長谷川三郎(1906-1957)の一般向け美術書との関係-沢野井の師，長谷川の1950年代の著作をふまえて
3. 学会等名 第45回美術科教育学会 兵庫大会（神戸大学オンライン開催）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宇田秀士
2. 発表標題 沢野井信夫（1916-1990）の「あそび」を活かした美術教育の構想について：著作『版画のいろいろ-版画あそび』の分析を中心に
3. 学会等名 第62回大学美術教育学会香川大会(香川大学対面開催)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宇田秀士
2. 発表標題 長谷川三郎(1906-1957)の美術教育の構想 -長谷川の著作『図画教材研究』(1951)及び『新しい形の美』(1951)を中心に
3. 学会等名 第46回美術科教育学会 弘前大会(弘前大学対面開催)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 奈良教育大学ESD書籍編集委員会編, 加藤久雄, 宮下俊也, 中澤静男; 宇田秀士ほか75名執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 371
3. 書名 学校教育におけるSDGs・ESDの理論と実践	

1. 著者名 福田隆眞、福本謹一監修、東良雅人、村上尚徳、山田芳明編著、宇田秀士ほか37名執筆	4. 発行年 2024年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 194
3. 書名 美術科教育の基礎	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>成果関連サイト 宇田秀士 researchmap https://researchmap.jp/65454039hide 奈良教育大学学術リポジトリ https://nara-edu.repo.nii.ac.jp/ 美術科教育学会 『学会通信』 http://www.artedu.jp/tusin/ 美術科教育学会誌『美術教育学』(J-STAGE掲載) https://www.jstage.jst.go.jp/browse/aaej/list/-char/ja 大学美術教育学会誌『美術教育学研究』(J-STAGE掲載) https://www.jstage.jst.go.jp/browse/uaesj/list/-char/ja 美術科教育学会リサーチ・フォーラム https://www.artedu.jp/researchforum 美術科教育学会 美術教育史部会 https://www.artedu.jp/bukai/bijyutu 奈良教育大学 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 美術教育専修サイト https://art.nara-edu.ac.jp/ 奈良教育大学Knowledge 奈教の授業 中等教科教育法III(美術) 宇田秀士 https://www.nara-edu.ac.jp/nakkyon_knowledge/blog/2021/07/iii.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡田 陽子 (OKADA Yoko)		奈良県立高取国際高校<非常勤>
研究協力者	尾西 啓充 (ONISHI Hiromitsu)		奈良県平群町立平群北小学校
研究協力者	松本 隆行 (MATSUMOTO Takayuki)		大阪 放課後等デイサービス
研究協力者	田邊 憲幸 (TANABE Noriyulki)		大阪府 茨木市立西中学校
研究協力者	赤座 雅子 (AKAZA Masako)		大阪 造形教室 キッズクラフト主宰
研究協力者	辻 大地 (TSUJI Daichi)		大阪 造形教室 こどもアートスタジオ副代表/大阪成蹊大学, 大阪樟蔭女子大学, 京都文教短期大学<それぞれ非常勤>
研究協力者	南谷 喜彦 (NANTANI Haruhiko)		兵庫県芦屋市立岩園小学校
研究協力者	中島 勝幸 (NAKAJIMA Katsuyuki)		奈良県郡山市立片桐中学校

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	上島 昌晃 (UESHIMA Masaaki)		大阪府 太子町立中学校
研究協力者	宮崎 藤吉 (MIYAZAKI Tokichi)		独立研究者
研究協力者	ウアラス マリオ (URLASS, Mario)		ドイツ バーデン=ヴュルテンベルク州 ハイデルベルク市 ハイデルベルク教育大学

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関